

図書紹介

新版「GAP入門」

- 食品安全と継続的農業生産のために -

著者：田上隆一・田上隆多・石谷孝佑

発行：GAP普及センター / 〒305-0035 茨城県つくば市松代 4-9-26-203 /

電話 029-856-1201 / A5判 / 231ページ / 価格 1900円(税別) / 2008年3月11日発行

GAP (Code of Good Agricultural Practice)とは、「適正農業規範」と訳され、その内容は「適切に農業生産の工程を管理すること」、すなわち農業生産の安全管理に関する項目をチェックシートにまとめ、各工程が確実に実施されていることを確認して生産者が自主的に衛生管理の向上に取り組むもので、農業生産段階にマネジメントシステムの考え方を取り入れた仕組みである。

昨年は新年早々の不二家に始まり、食品の産地偽装や賞味期限の改ざんなどの食の信頼を裏切る事件が多発し、また本年1月には中国産冷凍餃子による農薬中毒や加工品の残留農薬までも問題になってきている。

このような中で食品の品質および安全性確保のためには、「農場から食卓まで」(From farm to table / folk)の一連の過程における適切な管理が必要であり、そのためにISO22000の導入が推進されている。その導入にあたって前提条件プログラム(PRP)を確立することが要求しており、PRPのひとつとしてGAPも挙げられており、またHACCPやISO22000との関係に言及されてきている。

本書は、GAPについて正しい知識の提供と実際のGAPの導入法などを解説しており、安全で継続可能な農業の実施(GAP概論)、JGAPガイド、GAP導入事例、農業管理規則(品質管理マニュアル)の事例、記録帳票の事例などから構成されている。

まず安全で継続可能な農業の実施(GAP概論)では、1.なぜ今GAPなのかでは、広がる食中毒事件、農業の法規制、求められる一人一人のリスク認識など、2.GAPの社会的・歴史的意味では、様々なGAPの解釈、GAPの言葉の意味など、3.世界のGAP規範では、日本のGAP規範の動き、オーストラリアのSQF基準とGAP規範、中国のGAP規範など、4.GLOBALGAPとJGAPでは、GLOBALGAP(旧EUREPGAP)による農場保証、日本版GAPの農場保証、JGAPの国際標準化など、5.農場保証としてのGAP規範では、GAP規範と国際規格、「管理点と適合基準」とGAPの実施も、「管理点と適合基準」の目的など、6.トレーサビリティと生産履歴の記録では、農産物トレーサビリティの実

現、トレーサビリティは GAP の重要な管理点、記録は安全性確保の証明など、7 . 農場のリスク管理では、リスク認識とリスク管理、危害要員を生産の各段階で管理するなど、8 . GAP 導入の実際では、生産者にとつての GAP、リスク管理の進め方など、9 . 産地で取組む GAP では、GAP 規範は生産者全員のルール、生産部会で実施する GAP など、10 . 流通の変革と GAP では、購買行動と流通の変化、流通の責任を明確にしたフード・セイフティチェーンと GAP などである。

JGAP ガイドでは、圃場の選択と適正評価、病虫害対策、農薬の使用、農薬の残留分析、農薬の使用記録など、GAP 導入事例では、片山りんご(りんご生産)、マルケイ青果(青果物卸)、イスミ商事(食品スーパー)など、農業管理規則(品質管理マニュアル)の事例では、総則、規定、団体基準及び農場管理基準、記録帳票の事例では、栽培計画表、作業記録、農薬使用記録、農薬在庫台帳、問合わせ・クレーム対応票などである。巻末には、GAP で使われる言葉の説明が、またアルファベットと日本語の詳しい索引が付いており、GAP の理解する上うえで助けとなる。

本書は GAP を導入して農産物を生産される方々はいうに及ばず ISO22000 における PRP のひとつとして GAP を理解するうえでも大いに役立つこと請け合いである。

著者のひとり田上隆一氏は、日本で最初に GLOBALGAP の会員となり、日本に GAP を導入、構築した第一人者であり、本誌 34 巻 12 号(2006)に「青果物/カット青果物の衛生管理と微生物制御技術」³青果物の衛生管理(2)日本における GAP の取り組み - 顧客から信頼される農場管理のために」(講座)を執筆されており、参照されたい。(学会事務局)